

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター（案）

第9回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成26年10月20日（月）14:30～16:00に、栃木県栃木市の藤岡遊水池会館において「第9回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」を開催しました。委員会前には、新しい実験地を視察しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は委員6名にご出席いただきました。

【委員名簿】（五十音順・敬称略）

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授
一色 安義	渡良瀬遊水地野鳥観察会 会長
大和田 真澄	栃木県植物研究会 会員
栗原 隆	栃木県立博物館 学芸員
清水 義彦	群馬大学大学院 教授
高松 健比古	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人

はじめに、事務局より第8回委員会での指摘事項とそれらへの対応を報告し、委員の確認を頂きました。次いで、本年度のモニタリングの中間報告を報告し、調査結果の評価、考察時の留意点、今後のモニタリングのあり方などについてご意見やご助言を頂きました。また、事務局より今後の掘削に関する検討として、掘削予定と造成の考え方を説明し、動植物重要種に配慮した掘削の進め方について意見が出されました。

○主な意見

- ・ この事業で重要なのは、生物多様性の回復であり、貴重種等を含めた植物相についても評価結果を示してほしい。
- ・ 水位変動型実験地の状況を踏まえると、裸地を維持するには、植物の生育期に出水が繰り返し起き、土砂が動くことが重要と考えられる。
- ・ 両生類・爬虫類の外来種も増加傾向にあることから有識者から情報提供してもらうとよい。
- ・ 鳥類や昆虫類の生息地としてヤナギ林が必要であり、掘削地ではヤナギ類を全て駆除するのではなく、一部を計画的に保全してほしい。
- ・ 希少昆虫類の生息に配慮し、掘削予定地の形状を変更してほしい。

【委員会の様子】



【現地視察の様子】

